



茂木 清夫（もぎ きよお）

河北町名誉町民 平成 12 年 4 月 14 日顕彰

昭和 4 年（1929）、谷地町南町（現河北町谷地）に生まれました。旧制寒河江中学・山形高等学校を経て、東京大学理学部を卒業後、同地震研究所で火山や地震の研究に努め、理学博士になりました。その後、東京大学教授、同地震研究所所長、日本大学教授となり、長年にわたって地震学と火山学の研究を続けてきました。各大学や気象庁などで集めていた地震や火山に関するデータを駆使して、独創的な理論を考え出しました。そして、極めて複雑な地震や火山の活動をわかり易く説明しました。

また、地震活動を明らかにするため、独自の工夫による岩石破壊の実験を行い「地震とは地下の岩石の破壊によるものである」ことを明らかにしました。このような理論と実験の成果を活用することによって、地震や火山活動の予知・予報・予測が容易になったのです。このことは、地震発生や火山噴火における防災面に大きく貢献したことは言うまでもありません。

このように、地震・火山の研究において数々の輝かしい業績を挙げてきました。また、様々な学会活動、教育・学術活動、防災活動を通して、日本だけでなく全世界の地震学や火山学の発展に大きく貢献しています。さらに、地震や火山がもたらす災害の防止や軽減にも大きな足跡を残しました。